

幼児の運動能力に関する調査研究

－調査からみえはじめたこと－

A Field Study of Motor Ability in Young Children

大坪 邦資

佐々木昌代

Kunisuke OTSUBO

Masayo SASAKI

I. はじめに

幼児の運動能力は、幼児を取り巻く生活環境が変化した、地域の異年齢の遊び集団が見られなくなったために戸外での身体活動を伴った遊びが減少して室内での気晴らし的な遊びが増えた等々が影響して、低下傾向にあるとされる。よって、保育者は、地域や家庭の実情を踏まえながら、地域社会や保護者と連携して幼児の基本的な生活習慣を確立させるとともに、幼稚園や保育園（所）内にとどまらない幼児の運動遊びの充実を図らなければならない。

環境・健康領域の授業担当者として、保育者を目指して受講している保育・初等教育科の学生達には、このような幼児の実態を理解して、保育現場で積極的に対応していてもらいたいと願っている。そのために、授業では、学生達が理解しやすいように、教育・研究機関が報告している全国規模の調査結果に加えて、学生達が実際に実習や就職をする幼稚園や保育園（所）で実施した運動能力測定の結果も、幼児の実態を示す資料として提供している。すなわち、幼児の身体的発達について取り上げる際や幼児の遊びを促す環境構成について概説するとき、学生達により身近で具体的なデータを示して一層の理解をすすめたいと考え、宮崎市内の保育園の協力を得て運動能力測定を継続してきた。

宮崎市内の保育園に加えて、郡部の山間にある所謂僻地と指定される地域の幼稚園、保育園（所）、児童館^{※1}でも運動能力測定を実施する切っ掛けになったのは、やはり山間の僻地を調査フィールドとして継続している夜神楽の後継者育成に関する研究活動において、少子・高齢化による過疎の進行が危惧される僻地であるのにも関わらず幼児や児童の数が少なくない地域があることに気付き、そこで耳にした「学校も保育所も村の中央に統合されて、遠いもんじゃから自動車にばかり乗って一つも歩かんが子どもの足腰は大丈夫じゃろうか」という年寄達の声であった。また、保育所実習や幼稚園教育実習の挨拶に訪問すると、「どこへ行くのにも自動車を使って、遊び仲間がないので外遊びが少なくなって、運動能力面の発達が心配です」といった保育者の声も聞かれた。それならば測定させてくださいと依頼し、宮崎市内の幼児に加えて郡部の幼児の運動能力測定を実施して、測定結果を比較検証することにした。

遊び場が確保され、昔ながらの幼児の発育発達に有効な伝承遊びが保持されていて、郡部の山間の幼児の方が運動能力が高いのか。逆に、郡部では公共交通機関が不便であるためにドアからドア

へ自動車を利用し、遊び仲間が少ないか距離を隔てているために室内の手軽な一人遊びに偏っていて、運動能力が上手く発達していないのか。あるいは、宮崎市内の幼児の運動能力と比較しても、明らかな差異や傾向などはみられないのか。本調査研究は、このような素朴な疑問から取り組んでいる。

また、調査というには測定対象となる幼児数が少なく、例えば数百人から千人を超える全国規模の調査結果と比較しても意味がないのではないかと考えて、これまでは測定に協力していただいた保育園や幼稚園に結果を報告するのにとどめてきた。しかし、幼児の運動能力の低下が広く危惧される昨今においては、サンプル数が少なくとも、実際の幼児の現況を表わしている貴重なデータであるので、測定結果の具体性をできるだけ損なわないように集計して、全国調査との比較検証、宮崎市内と郡部との比較検証を行うことにした。

さらに、幼児の運動能力の向上を目指した取り組みについても資料を得たいと考え、測定調査に協力いただいた保育現場から、測定結果を通した聞き取り調査もはじめることにした。ところが、地域差も加味して検証するために、宮崎市内から郡部に調査の対象を上げると、幼児の運動能力の発達と運動遊びの充実や基本的な生活習慣の形成について聴取する前に、それぞれの地域には把握すべき切実な状況、認識を新たにすべき実態があることに気付かされた。

II. 研究の目的

- ・ 宮崎市内および郡部の幼児の運動能力測定を実施して全国的測定値と比較し、宮崎県の幼児の運動能力に関する傾向と問題点について検証する。
- ・ 宮崎市内および郡部の山間の幼児の運動能力測定を実施して相互に測定値を比較し、宮崎県の幼児の運動能力に関する地域差の有無について検証する。

III. 研究の方法

- ・ 測定種目
「25m走」「立ち幅跳び」「硬式テニスボール投げ」
- ・ 測定方法
「新・日本人の体力標準値2000」(東京都立大学体力標準値研究会編)に記載されている「25m走」「立幅跳」「ソフトボール投げ」の〔測定方法〕に準拠して実施した。
- ・ 測定対象
年少クラス、年中クラス、年長クラスについて測定を実施したが、検証の対象は測定実施日に4歳児以上である幼児とした。
- ・ 測定時期
2002年～2006年にかけて測定を実施したが、何れの年も保育の仕上げの時期に相当する2月下旬から3月中旬に測定日を設定した。

IV. 測定結果および比較検証資料

表1-1-1. 保育園(所)・幼稚園・年齢・男女別の運動能力測定結果(宮崎市①)

種目	年齢	全国調査* 1997年			宮崎市S保育園 1997年			宮崎市S保育園 2002年			宮崎市T保育園 2002年			宮崎市K保育園 2003年		
		平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数
25m走 (秒)	4歳前半	8.01	1.05	827				7.50	0.70	3	7.81	0.84	7	7.49	0.73	7
	4歳後半	7.37	0.82	1,175				7.11	0.44	12	6.34	0.69	5	6.80		1
	5歳前半	7.00	0.81	1,298				6.02	0.50	6	6.67	0.40	3	6.23	0.52	10
	5歳後半	6.60	0.79	1,292				5.94	0.26	5	5.98	0.29	5			6
	6歳前半	6.29	0.64	1,419				5.73	0.29	7	5.57	0.21	3	5.55	0.77	6
	6歳後半	6.17	0.59	347				5.64	0.36	5	5.75	0.35	2	5.26	0.30	8
立ち幅跳び (cm)	4歳前半	77.8	18.6	843	62.7	21.9	2	87.3	7.8	3	70.9	21.4	8	84.4	12.6	7
	4歳後半	89.0	18.6	1,177	77.2	18.0	6	89.9	15.1	12	85.8	10.9	5	78.0		1
	5歳前半	96.3	18.4	1,294	90.5	15.9	4	102.0	6.5	6	91.3	16.7	3	100.1	7.0	10
	5歳後半	106.3	18.3	1,286	95.0	12.7	2	108.4	10.3	5	107.2	11.9	5			6
	6歳前半	113.6	18.2	1,426	104.0		1	124.1	13.3	7	123.3	3.8	3	126.5	11.4	6
	6歳後半	117.6	17.9	350				136.0	9.6	5	115.0	15.6	2	128.1	11.9	8
硬式 テニスボール 投げ (m)	4歳前半	3.2	1.8	782	4.5	1.7	8	5.3	1.5	3	4.6	1.2	8	4.4	1.6	7
	4歳後半	4.0	2.1	1,086	5.3	2.1	6	6.0	1.7	12	7.6	3.9	5	6.0		1
	5歳前半	4.9	2.4	1,193	5.0	2.2	5	6.8	2.6	6	8.7	1.9	3	7.8	1.9	10
	5歳後半	6.0	3.0	1,179	4.5	0.7	2	11.2	3.3	5	9.4	2.3	5			6
	6歳前半	7.1	3.2	1,291	9.0		1	9.1	2.3	7	8.7	4.5	3	12.7	2.2	6
	6歳後半	7.6	3.3	329				12.0	4.1	5	11.5	2.1	2	13.3	3.0	8
25m走 (秒)	4歳前半	8.31	1.07	784				8.36	0.98	8	8.40	0.00	2	7.66	-1.09	5
	4歳後半	7.59	0.85	1,060				6.75	0.92	6	6.82	0.81	10	7.12	0.99	6
	5歳前半	7.20	0.78	1,346				6.55	0.62	6	6.89	0.84	7	6.45	0.57	4
	5歳後半	6.75	0.72	1,248				6.17	0.38	6	5.98	0.47	5	6.03	0.69	4
	6歳前半	6.47	0.61	1,361				6.11	0.51	9	5.94	0.73	5	5.93	0.42	3
	6歳後半	6.36	0.61	298				6.90		1	5.64	0.33	7	5.72	0.22	5
立ち幅跳び (cm)	4歳前半	70.4	17.2	789	60.0	7.1	3	74.6	15.3	8	60.0	2.8	2	84.8	13.2	5
	4歳後半	80.9	16.7	1,072	65.3	14.8	6	87.5	8.1	6	69.0	10.2	10	86.5	26.3	6
	5歳前半	87.0	17.1	1,359	76.0	9.2	5	87.0	15.0	6	80.9	18.7	7	92.0	8.5	4
	5歳後半	96.2	17.6	1,239	94.8	4.1	4	91.7	15.0	6	94.8	11.6	5	108.5	2.4	4
	6歳前半	103.2	17.4	1,354	92.0		1	120.6	16.9	9	116.8	14.1	5	108.3	3.1	3
	6歳後半	106.1	18.2	294				102.0		1	113.3	16.9	7	111.6	12.1	5
硬式 テニスボール 投げ (m)	4歳前半	2.9	1.1	734	2.7	0.6	3	4.0	0.8	8	4.0	0.0	2	3.8	1.9	5
	4歳後半	3.5	1.2	962	4.7	2.0	6	5.7	1.0	6	4.4	1.1	10	4.8	1.2	6
	5歳前半	4.0	1.4	1,248	4.2	0.8	5	6.0	1.1	6	4.8	1.0	6	5.8	1.0	4
	5歳後半	4.8	1.6	1,143	4.5	1.3	4	5.2	0.8	6	6.8	2.0	5	6.0	1.4	4
	6歳前半	5.6	1.8	1,249	5.0		1	7.2	1.1	9	7.4	2.7	5	6.7	0.6	3
	6歳後半	5.9	2.0	278				6.0		1	7.7	1.7	7	8.0	2.0	5

*近藤充夫他「最近の幼児の運動能力」(『体育の科学』48巻10号 1998)

○:有意に全国調査の平均値を上回っている(p<0.5)

●:有意に全国調査の平均値を下回っている(p<0.5)

表1-2. 保育園(所)・幼稚園・年齢・男女別の運動能力測定結果(宮崎市②)

種目	全国調査*					宮崎市B保育園 2003年			宮崎市E保育園 2003年			宮崎市M幼稚園 2005年			宮崎市S保育園 2006年		
	年齢	平均	標準偏差	人数	標準偏差	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数
2.5m走 (秒)	4歳前半	8.01	1.05	827	0.54	7.14	0.54	10	7.23	0.32	4	7.80	0.77	6	7.34	0.78	7
	4歳後半	7.37	0.82	1,175	0.84	6.60	0.84	6	7.26	1.12	5	7.19	0.43	8	7.28	0.83	4
	5歳前半	7.00	0.81	1,298	0.37	6.22	0.37	5	6.23	0.38	3	6.77	0.75	19	6.17	0.36	9
	5歳後半	6.60	0.79	1,292	0.20	5.79	0.20	7	5.96	0.34	5	6.31	0.37	14	5.80	0.14	2
	6歳前半	6.29	0.64	1,419	0.37	5.48	0.37	5	5.74	0.40	7	6.23	0.55	25	5.63	0.47	4
	6歳後半	6.17	0.59	347	0.60	5.36	0.60	7	5.88	0.18	5	5.99	0.18	9	5.88	0.34	11
立ち幅跳び (cm)	4歳前半	77.8	18.6	843	12.0	78.2	12.0	10	86.5	17.6	4	71.0	12.8	6	86.0	8.6	6
	4歳後半	89.0	18.6	1,177	11.9	86.8	11.9	6	86.2	17.2	5	80.9	4.4	8	83.2	13.3	5
	5歳前半	96.3	18.4	1,294	3.1	93.0	3.1	5	96.0	5.6	3	96.8	20.1	19	102.4	16.5	9
	5歳後半	106.3	18.3	1,286	11.3	112.3	11.3	7	110.2	20.3	5	104.7	9.0	14	110.0		1
	6歳前半	113.6	18.2	1,426	12.8	105.2	12.8	5	117.0	10.8	7	107.5	16.6	25	111.5	8.3	4
	6歳後半	117.6	17.9	350	16.8	120.1	16.8	7	106.2	11.4	5	115.2	15.1	9	109.3	12.8	11
硬式テニスボール 投げ (m)	4歳前半	3.2	1.8	782	0.61	6.1	0.61	10	6.5	1.9	4	4.5	1.4	6	6.6	2.0	7
	4歳後半	4.0	2.1	1,086	0.70	7.0	0.70	6	7.0	2.5	5	4.9	1.4	8	6.3	0.5	4
	5歳前半	4.9	2.4	1,193	0.74	7.4	0.74	5	9.3	0.6	3	7.1	2.2	19	8.8	3.4	9
	5歳後半	6.0	3.0	1,179	10.3	10.3	3.5	7	11.4	4.6	5	8.0	1.3	14	6.5	0.7	2
	6歳前半	7.1	3.2	1,291	12.0	12.0	4.3	5	11.6	2.2	7	8.6	3.2	25	9.5	4.1	4
	6歳後半	7.6	3.3	329	11.4	11.4	3.7	7	12.0	2.5	5	10.6	3.1	9	11.5	1.9	11
2.5m走 (秒)	4歳前半	8.31	1.07	784	0.28	8.40	0.28	2	7.20	0.74	5	7.55	0.75	11	7.78	0.89	8
	4歳後半	7.59	0.85	1,060	0.51	6.83	0.51	7	7.08	0.49	5	7.79	0.96	8	6.70	0.55	6
	5歳前半	7.20	0.78	1,346	0.34	6.35	0.34	6	6.15	0.35	2	6.89	0.37	15	6.88	0.30	4
	5歳後半	6.75	0.72	1,248	0.37	6.20	0.37	4	6.35	0.70	4	6.66	0.60	26	6.20	0.14	2
	6歳前半	6.47	0.61	1,361	0.82	5.89	0.82	9	6.10	0.46	3	6.48	0.33	16	5.96	0.45	9
	6歳後半	6.36	0.61	298	0.14	5.30	0.14	2	5.89	0.45	7	6.19	0.57	7	6.00	0.86	6
立ち幅跳び (cm)	4歳前半	70.4	17.2	789	7.1	58.0	7.1	2	73.3	8.2	4	68.7	16.5	11	72.0	15.1	8
	4歳後半	80.9	16.7	1,072	9.4	76.3	9.4	7	76.2	14.2	5	65.5	8.3	8	81.4	6.8	5
	5歳前半	87.0	17.1	1,359	15.2	77.5	15.2	6	81.0	11.1	3	82.2	10.9	15	84.7	1.5	3
	5歳後半	96.2	17.6	1,239	22.2	86.8	22.2	4	100.3	4.5	4	85.6	12.2	26	84.0	9.9	2
	6歳前半	103.2	17.4	1,354	13.6	100.4	13.6	9	91.0	23.6	3	93.8	14.3	16	105.4	12.3	9
	6歳後半	106.1	18.2	294	20.5	117.5	20.5	2	89.6	20.9	7	88.4	23.6	7	104.2	21.7	6
硬式テニスボール 投げ (m)	4歳前半	2.9	1.1	734	0.0	4.0	0.0	2	4.0	1.0	5	3.4	0.7	11	3.6	1.3	8
	4歳後半	3.5	1.2	962	0.8	3.7	0.8	7	4.6	0.5	5	3.1	0.8	8	4.3	0.5	6
	5歳前半	4.0	1.4	1,248	1.2	4.7	1.2	6	5.0	2.8	2	5.2	1.4	15	5.8	0.5	4
	5歳後半	4.8	1.6	1,143	0.8	6.0	0.8	4	6.8	1.3	4	5.3	1.4	26	4.5	0.7	2
	6歳前半	5.6	1.8	1,249	1.2	6.0	1.2	9	7.7	2.5	3	6.4	1.8	16	6.0	1.3	9
	6歳後半	5.9	2.0	278	0.7	8.5	0.7	2	7.3	0.8	7	7.4	2.2	7	9.2	2.0	6

*近藤充夫他「最近の幼児の運動能力」(『体育の科学』48巻10号 1998)

○:有意に全国調査の平均値を上回っている (p<0.5)

●:有意に全国調査の平均値を下回っている (p<0.5)

表1-3. 保育園(所)・幼稚園・年齢・男女別の運動能力測定結果(郡部)

種目	年齢	全国調査* 1997年			高千穂町C保育園 ^{注2} 2003年			南郷村D保育所 2003年			椎葉村E児童館 2006年			諸塚村M幼稚園 2006年		
		平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数
2.5m走 (秒)	4歳前半	8.01	1.05	827	6.90	0.42	6	7.20	1	7.48	0.59	4	7.80	0.17	3	
	4歳後半	7.37	0.82	1,175	6.73	0.61	3	7.08	5	6.73	0.42	3	7.20	0.68	1	
	5歳前半	7.00	0.81	1,298	6.33	0.41	6	6.33	4	6.50	0.75	1	7.40	0.68	4	
	5歳後半	6.60	0.79	1,292	5.80	0.34	1	6.33	4	6.80	1.16	1	6.70	0.87	1	
	6歳前半	6.29	0.64	1,419	5.65	0.34	4	6.33	4	5.50	0.75	1	6.50	0.87	5	
	6歳後半	6.17	0.59	347	5.65	0.34	4	6.33	4	5.50	0.75	1	6.50	0.87	5	
立ち幅跳び (cm)	4歳前半	77.8	18.6	843	73.0	13.1	6	118.0	1	79.3	4.5	4	70.3	14.5	3	
	4歳後半	89.0	18.6	1,177	98.0	12.1	3	80.8	5	84.7	15.3	3	62.0	17.5	1	
	5歳前半	96.3	18.4	1,294	85.8	9.1	6	110.0	4	95.0	15.8	1	76.8	17.5	4	
	5歳後半	106.3	18.3	1,286	127.0	19.0	1	110.0	4	99.0	17.5	1	85.0	15.6	1	
	6歳前半	113.6	18.2	1,426	117.0	19.0	4	110.0	4	111.0	11.0	1	89.4	15.6	5	
	6歳後半	117.6	17.9	350	117.0	19.0	4	110.0	4	111.0	11.0	1	114.0	127.0	2	
硬式 テニスボール 投げ (m)	4歳前半	3.2	1.8	782	6.5	2.3	6	7.0	1	5.3	1.0	4	7.3	1.5	3	
	4歳後半	4.0	2.1	1,086	6.7	2.1	3	6.4	5	7.0	2.6	3	7.0	1.3	1	
	5歳前半	4.9	2.4	1,193	7.8	3.3	6	12.8	4	10.0	1.5	1	6.8	1.3	4	
	5歳後半	6.0	3.0	1,179	11.0	2.9	1	12.8	4	13.0	2.5	1	6.0	2.7	1	
	6歳前半	7.1	3.2	1,291	14.0	2.9	4	12.8	4	11.0	1.0	1	10.4	2.7	5	
	6歳後半	7.6	3.3	329	14.0	2.9	4	12.8	4	11.0	1.0	1	10.4	2.7	5	
2.5m走 (秒)	4歳前半	8.31	1.07	784	7.30	0.26	5	7.15	2	7.40	0.07	2	7.73	0.69	6	
	4歳後半	7.59	0.85	1,060	6.47	0.38	3	7.04	5	7.30	0.47	2	7.90	0.66	1	
	5歳前半	7.20	0.78	1,346	5.87	0.29	3	6.80	4	6.60	0.55	4	7.20	0.66	3	
	5歳後半	6.75	0.72	1,248	5.97	0.25	3	6.72	5	6.50	0.30	5	6.50	0.62	3	
	6歳前半	6.47	0.61	1,361	5.97	0.25	3	6.72	5	5.95	0.21	2	5.97	0.15	3	
	6歳後半	6.36	0.61	298	5.83	0.30	4	6.72	5	5.80	0.44	3	5.70	0.14	2	
立ち幅跳び (cm)	4歳前半	70.4	17.2	789	72.6	15.0	5	76.5	2	85.0	3.5	2	78.0	12.3	6	
	4歳後半	80.9	16.7	1,072	91.7	5.9	3	90.0	5	79.5	13.7	2	66.0	10.6	1	
	5歳前半	87.0	17.1	1,359	87.0	17.0	3	89.0	4	112.0	9.0	4	86.3	10.6	3	
	5歳後半	96.2	17.6	1,239	88.3	15.3	3	81.2	5	105.0	8.8	1	95.7	14.5	3	
	6歳前半	103.2	17.4	1,354	88.3	15.3	3	81.2	5	93.5	6.4	2	95.0	10.4	3	
	6歳後半	106.1	18.2	294	92.5	11.1	4	81.2	5	114.0	17.4	3	114.5	14.8	2	
硬式 テニスボール 投げ (m)	4歳前半	2.9	1.1	734	4.0	0.7	5	5.0	2	5.0	0.0	2	4.2	1.2	6	
	4歳後半	3.5	1.2	962	5.3	0.6	3	5.6	5	4.5	2.2	5	4.0	0.6	1	
	5歳前半	4.0	1.4	1,248	6.3	0.6	3	5.5	4	8.0	1.7	4	5.3	0.6	3	
	5歳後半	4.8	1.6	1,143	5.3	0.6	3	5.0	5	6.0	0.7	5	4.7	2.5	3	
	6歳前半	5.6	1.8	1,249	5.3	0.6	3	5.0	5	7.0	0.0	2	8.7	1.2	3	
	6歳後半	5.9	2.0	278	7.0	0.8	4	5.0	5	8.3	1.2	3	11.0	4.2	2	

*近藤充夫他「最近の幼児の運動能力」(『体育の科学』48巻10号 1998)

○:有意に全国調査の平均値を上回っている (p<0.5)

●:有意に全国調査の平均値を下回っている (p<0.5)

表2. 宮崎県と全国平均値との比較 (児童生徒の体力・運動能力調査報告書 宮崎県教育委員会)

学年	男/女	平成12年度		平成13年度		平成14年度	
		50m走	立ち幅とび	50m走	立ち幅とび	50m走	立ち幅とび
小1	男	—	—	●	—	●	—
小2	男	—	—	—	—	—	—
小3	男	—	—	●	●	—	—
小4	男	—	—	—	—	◎	—
小5	男	—	—	—	●	—	—
小6	男	●	—	◎	—	—	—
中1	男	—	●	—	—	—	—
中2	男	—	—	—	—	●	—
中3	男	—	●	—	—	●	—
小1	女	—	●	—	●	—	—
小2	女	—	—	—	●	—	—
小3	女	—	●	●	●	●	—
小4	女	—	—	●	●	●	—
小5	女	—	●	◎	●	—	—
小6	女	—	●	—	—	—	—
中1	女	●	—	—	—	●	—
中2	女	—	●	—	—	●	—
中3	女	◎	●	—	●	●	—

学年	男/女	平成15年度		平成16年度		平成17年度	
		50m走	立ち幅とび	50m走	立ち幅とび	50m走	立ち幅とび
小1	男	—	◎	—	—	●	—
小2	男	◎	—	—	◎	—	—
小3	男	—	—	—	●	●	—
小4	男	—	◎	—	—	●	—
小5	男	—	◎	—	—	—	—
小6	男	—	—	—	—	●	—
中1	男	●	—	●	—	●	—
中2	男	—	●	—	—	—	—
中3	男	—	—	—	—	—	—
小1	女	—	—	—	—	—	—
小2	女	—	—	—	●	—	—
小3	女	◎	—	—	—	—	—
小4	女	—	—	●	—	●	—
小5	女	—	◎	●	—	—	—
小6	女	—	—	—	—	—	—
中1	女	●	—	—	—	●	—
中2	女	●	—	—	—	●	—
中3	女	—	●	—	●	—	—

◎：有意に全国平均を上回っている

●：有意に全国平均を下回っている

—：有意差がない^{#3}

V. 考察

サンプル数が不足していること、測定を実施した年度が統一していないことなどを断った上で、測定結果からは、宮崎県の幼児の運動能力について以下のような傾向がうかがえる。

- ・ 「25m走」については、全国調査の平均値と比較して、宮崎市内の幼児は男女ともにやや優れたレベルにあり、郡部の山間（以下、郡部とする）の幼児は男女ともにほぼ等しいレベルにあると思われる。しかし、全国調査が最近実施されたものではないことを考慮すると、幼児を含めた子ども達の体力・運動能力の低下に歯止めが掛かっていないとされる現状では、宮崎市内の幼児、郡部の幼児ともにやや優れた傾向がみられると言ってもよいかもかもしれない。
- ・ 「立ち幅跳び」については、全国調査の平均値と比較して、宮崎市内の幼児、郡部の幼児ともにやや劣ったレベルにあり、男子ではより郡部の幼児に、女子ではより宮崎市内の幼児に劣った傾向がみられる。
- ・ 「硬式テニスボール投げ」については、全国調査の平均値と比較して、宮崎市内の幼児、郡部の幼児ともに優れたレベルにあり、男子では宮崎市内と郡部の幼児に差がなく、女子では郡部の幼児にやや優れた傾向がみられる。

よって、今回の調査からは、宮崎県の幼児の運動能力は、1997年に実施された全国調査の平均値と比較して、「走」と「投」は優れている傾向にあり、「跳」は劣っている傾向にあることが認められた。この傾向は、宮崎県教育委員会が毎年度報告している「児童生徒の体力・運動能力調査報告書」小学1年生～中学3年生の「50m走」「立ち幅とび」「ボール投げ」についての宮崎県と全国平均との比較（表2）ともほぼ一致している。

宮崎県の幼児の「跳」が全国調査の平均値に比較して劣っている傾向にあることは、些か問題視すべき測定結果かもしれない。一般に、「跳」は、幼児が保育のなかで多様な運動遊びを展開しているか否かを判断するのに適した測定種目とされている。したがって、「跳」が劣っている傾向にあるということは多様な運動遊びに欠けていることになる。ところが、「投」の測定結果が優れている場合は、「跳」以上に多様な運動遊びが展開されていることを示唆するとみなされる。投げる、捕る、押す、引く、ぶら下がる、腕で体を支える、何かを持ち上げるといった上肢を使用した運動が含まれた遊びがよく展開されているのに比べて、跳ぶ、蹴る、滑り込む、踏ん張る、片足立ちでバランスを取るといった下肢を使用した運動が含まれた遊びが展開され難い環境下にあるとも考えられる。

また、この調査結果を2006年5月20日（土）～21日（日）に開催された日本保育学会第59回大会で発表したところ、東京都内の幼稚園の先生方から「私どもの園では全国平均に比べて「立ち幅跳び」は優れているのに「ボール投げ」が劣っているので、どうしたら「ボール投げ」がこのように優れた測定結果になるのか教えてほしい」との質問をいただいた。普段の生活のなかでの移動手段を想像すると、宮崎では公共交通機関が十分に整備されていないために自動車に頼り、東京に比べると自分の足で移動することが少なく、歩くことで下肢を発育発達させる^{#4}機会が限られてしまうことが影響しているとも考えられる。今後、サンプル数を蓄積して、あらためて検証しなければならないが、保育現場にも投げかけて検討していきたい。

宮崎県の幼児の「走」「跳」「投」についての地域差は認められなかった。男女別にみた場合には若干の差異が認められたが、宮崎市内の幼児と郡部の幼児の間に明確な運動能力の差異はなかった。

この点も、サンプル数を蓄積して、あらためて検証をすすめたい。

VI. まとめ（今後の調査に向けて）

宮崎県の幼児の運動能力について、宮崎市内と郡部に差がなく、「走」「投」能力に優れ「跳」能力に劣る傾向のあることが認められた。極限られた範囲の測定値ではあるが、結果が数値で表われるので具体的な目安として、担当しているクラスの測定平均値が、大規模に実施された全国調査の平均値より優れた結果であれば安堵し、劣った結果であれば自分達の保育を省みるというのが保育現場の率直な反応であるので、郡部の保育者が予め心配したような憂慮すべき結果がみられなかったことは調査した側としても安堵することであった。大まかに認められた傾向とともに、一人一人の幼児の測定結果について、個々の運動遊びや基本的な生活習慣などについて見直す資料として活かしてもらえるように、保育現場に調査結果を還元したい。

早急に対応しなければならないような地域差が認められなかった一方で、それぞれの地域には、山間の郡部として等しくみなしてはならない状況があることに測定調査を通じて気付かされ、地域の実情を踏まえるということが如何に困難なことか思い知った。同時に、運動能力の測定結果だけを授業で学生達に提示しても、それぞれの地域の実態や地域社会から求められている保育ニーズについて伝えなければ、実際的な理解には繋がらないことを痛感した。

例えば、日向市に比較的近く通勤可能な距離にある旧南郷村（現美郷町南郷区）では、市町村合併の前ではあるが、子育て世代が村外に勤務先を定めても住民としては村内にとどまることを企図して保育料を低く抑えているという状況が聴取された。同様の状況と思われた椎葉村では、役場の保育担当者によれば、多様な保育ニーズに対応するように努めてはいるが、子育て世代を引きとめたり出産を促したりするための保育行政は行っていないと言う。児童館に預けないといけないような家庭は少ないが集団生活のなかで社会性を身に付けさせようと児童館への入所を希望する昔からの住民の保育ニーズと、役所や学校などに勤務するために一時的に椎葉村に移住してきた児童館を利用しないと仕事ができ難い新しい住民の保育ニーズがあり、単純に山間の僻地に求められる保育として一括りにはできないようである。周囲と一緒に遊ぶ子どもがいないので児童館に預けなければならないという感覚が強い昔からの住民の求める保育に加えて、宮崎市などから移って来て市部の保育サービスの体験から行政への要望やクレームとして出される新しい住民の求める保育がある。宮崎市などの市部の保育ニーズと椎葉村などの郡部の保育ニーズは、それぞれ特徴となる違いは認めても、決めつけや思い込みから捉えてはならないことがつくづく了解された。

山間の僻地を少子・高齢化が問題となっている地域として等しくみなすことも、間違った認識としてあらためなければならぬ。椎葉村は、厚生労働省から5年ごとに報告されている「市区町村別の合計特殊出生率」が1998年から2002年の平均において2.22を記録して、上位20団体に入っている。実際にも、役場の保育担当者によると「2人目までは当然だが、高校進学から村外に出なければならぬので経済的なところで3人目4人目の出産を悩む」というのが椎葉村の出産適齢期の夫婦の一般的な考え方であるとのことであった。

幼児の運動能力についての測定調査からみえはじめたことは、これまで固定観念や先入観のためにみているつもりでみていなかったことであった。真っ白な状態で保育現場に臨んであるがままの現状を理解していくことが、実際は、たいへん難しいということを知った。測定調査を開始するに

先だって、宮崎市内の幼児と郡部の幼児の運動能力に差異をもたらすような明確な地域ごとの特別な状況があると思いついていた。取り分け、郡部には、宮崎市にはみられないような僻地や過疎といったイメージにふさわしい保育ニーズや問題点があると決めつけていたようである。

その反対もある。市町村単位よりも小さな単位で地域をみていくと、地域社会の存続そのものが危うい状況にある集落を目の当たりにするときがある。そのような地域に足を踏み入れてしまうと、その危うさに目を奪われて調査する立場としての客観的な視点を見失いそうになる。思い込みや決めつけと同様に、一部の現実を全体の現実とみなすような粗雑な拡大解釈も避けなければならないこととして自覚された。

今後は、測定調査を丹念に積み重ねていくとともに、保育現場や保育行政に携わる保育関係者に対してほんとうに予断のない聞き取り調査を実行して、宮崎県の幼児の運動能力について明らかにしていかなければならないと思う。そして、その探究の過程から、保育者を目指す学生達に伝えるべきこと、保育現場に還元すべきことを真摯に見出していきたい。

最後に、測定調査に快く協力して下さった幼稚園、保育園（所）、児童館の先生方、聞き取り調査に懇切に応じて下さった椎葉村役場の保育担当の方々、一生懸命に走って跳んで投げてくれた幼児の皆さん、測定に手を貸してくれた学生の皆さんに深く感謝いたします。

注

1. 椎葉村の児童館は、学童保育に使用するという目的で国庫補助を得て施設が建設され、館長は併設している小学校校長が兼務しているが、運営実態は僻地保育所である。
2. 高千穂町の中心地に位置しているため僻地保育所には該当しないが、今回の調査では、周辺の状況から郡部の山間の保育園として検証した。サンプル数を蓄積した段階で、属性についてはあらためて検討したい。
3. 報告書の年度によって、有意差の水準が異なっている。平成12～14年度は、1%水準と5%水準が区別されているが、5%水準としてまとめて表記した。平成15年度は、有意差の水準が明記されていない。平成16～17年度は、5%水準とされている。
4. 幼稚園などへの徒歩通園距離が長いほど、足の機能の発育が良く、運動能力の発達も高いとされる。これは、歩くという経験が豊富になることと併せて、歩き癖や動き癖として運動することがより習慣づけられることによると考えられている。

主要参考文献

- 1) 原田碩三他 「子ども健康学」 みらい 2004
- 2) 宇土正彦監修, 畠山倫子編著 「幼児の健康と運動遊び」 保育出版社 1999
- 3) 安積和夫, 原田碩三 「足と靴の話67」 黎明書房 1995
- 4) 近藤充夫, 杉原隆, 森司朗, 吉田伊津美 「最近の幼児の運動能力」(『体育の科学』48巻10号) 1998
- 5) 大槻文夫他 「新・日本人の体力標準値2000」 東京都立大学体力標準値研究会 2000